

イオン環境財団と連携！「世界遺産やんばるで学ぶ森と人のつながり」を開講しました！

大島 順子（国際地域創造学部准教授）
高嶋 敦史（農学部准教授）
山田 典子（地域連携推進室特命准教授）
濱川 美海（人文社会学部2年次）
高木 良哉（理学部2年次）

2026年2月公益財団法人イオン環境財団の協力のもと、琉球大学の共通教育科目（琉大特色・地域創生特別講義X）「世界遺産やんばるの森と人のつながり」を開講した。

学内での2日間の講義、そして国頭村にある農学部附属亜熱帯フィールド科学教育研究センター（通称：与那フィールド）にて2泊3日の現地学習の中では、やんばるの世界自然遺産登録地やその周辺の森を多様な視点から探訪し、学ぶ機会となった。

学内講義では、主に沖縄の自然や文化を代表する1,500点余りの標本や資料が常設展示されている本学の博物館（風樹館）の見学を含め、世界遺産についての基礎知識や人間社会に貢献する森林の多様な役割、イオン環境財団の森づくりの考え方などを講義やアクティブ・ラーニングを交えて展開された。

2泊3日の現地学習では、森林での観察を通して、やんばるの森の多くを占めるイタジイの古木やそれを利用する生きものたちのこと、林内の足元に広がる草類と栄養を含んだ土等、資源の循環や森の形成には土壌環境を適切に保つことが森林内の生態系維持に必要であること、また、樹木は資材としての利用だけでなく、イタジイの樹皮が首里織の天然染料に使われているという伝統文化と樹木の繋がりを学び、新しい発見があった。

一方、いくつものダム建設による県民の水がめとしての水源涵養林としてのやんばるの森の重要性の認識不足や道路整備によって多発する希少動物のロードキルに対するドライバーへの啓発活動の欠落、そしてペットや収集愛好家による不法採集・盗掘等による人間活動の影響といった課題が山積みしていることを認識し、地域の指導者の方を講師として招き、フィールドワークを重ねた。

学生たちは、森林の持つ価値や大切さを確認し、人の営みによる様々な影響を受けながらも持続可能な社会に向けてやんばるが抱える課題を整理し、未来に向けた提言をまとめた。

授業の様子や学生がまとめた提言内容は、4月3日～12日本島中部の商業施設（イオンモール沖縄ライカム）にてポスター展示され、広く県内外の皆さんへ本学と企業との連携を生かした教育実践として公開した。

なお、今回の現地学習で学生が使用した施設は、本学の農学部附属亜熱帯フィールド科学教育研究センター（与那フィールド）ですが、日本の大学の中で唯一、亜熱帯に位置する大学演習林で、その一部（4分の1）は世界遺産に含まれているという日本の大学として初めて世界自然遺産の土地を管理している場所である。与那フィールドは他大学や研究機関とも連携し「日本最南端の森林データ」を提供するだけでなく、本学の学生や公開講座等を通して広く県民の皆さんにもフィールドワークや実習など、研究や教育の面で発揮されている施設で年間50件以上の利用がある。今後も、森林の持つ価値や大切さ、そこに暮らす生きものたちと共存することの意義を研究や現地での体験を通じた教育における重要な拠点として活用していく。

「やんばる」の価値を考える

イオン環境財団寄附講義琉大特色・地域創生特別講義

「未来へつなぐ、私たちの森」

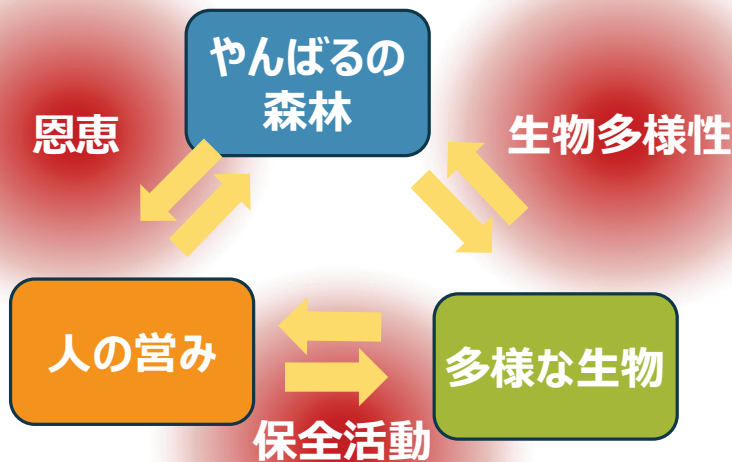
希少種防衛隊

国際地域創造学部1年 257214B 城間盛太 農学部 1年 256202C 東梨優
国際地域創造学部1年 257222C 新垣尊 農学部 1年 256217B 平得優奈

座学での学び

世界自然遺産のやんばるの森林と人々のかかわり

寄附講義



やんばるの森林は、生物多様性が高く、多くの固有種・絶滅危惧種が生息している点が評価され、2021年に世界自然遺産に登録された。将来世代へ継承すべき人類共通の遺産である。

森林は常緑広葉樹林を中心に構成され、大径木を利用する固有種も存在することから、生態系の維持において大径木が重要な役割を果たしている。

また、人の生活圏と森林が近接しており、動植物と人との共存が不可欠である。さらに、座学では、林業のコストと保全の両立の難しさも学んだ。

現場を見て学んだこと・感じたこと・伝えたいこと



生物の痕跡、多様な昆虫

夜行性動物の鳴き声や美しい星空

人々による森林利用を学ぶ

実際に森林を散策することで、地面の感触や森の匂い、湿度などを通して五感で環境を体験した。昆虫類や野生動物の痕跡から高い生物多様性を確認できた。夜は人工光が少ない環境で星空を観察し、同時にヤンバルクイナなどの鳴き声を聞くことで、人間中心ではない生態系の存在を意識した。さらに、森林が資源として利用されていることを学び、自然と人が関係性を築いていることを理解した。

**座学だけでは森林の構造や生物多様性を十分に把握することは難しく、
現地での体験が重要である。**



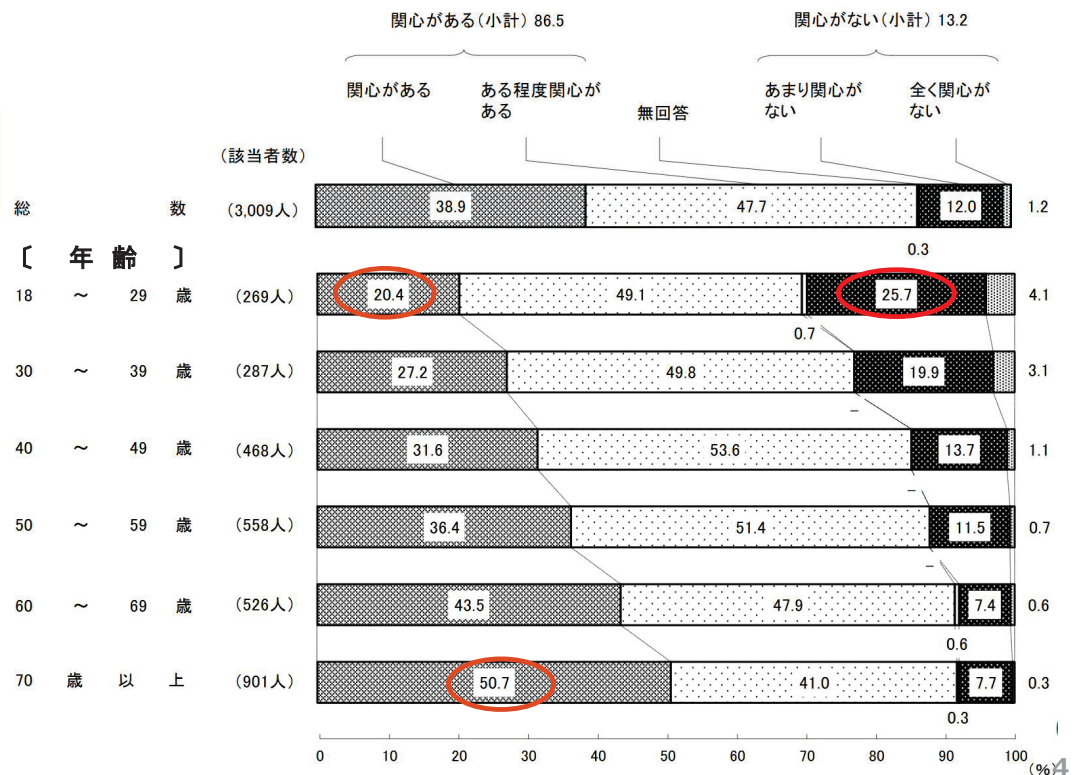
見つけた課題

・自然と触れ合う機会の減少
・若い世代の自然に対する関心の低下

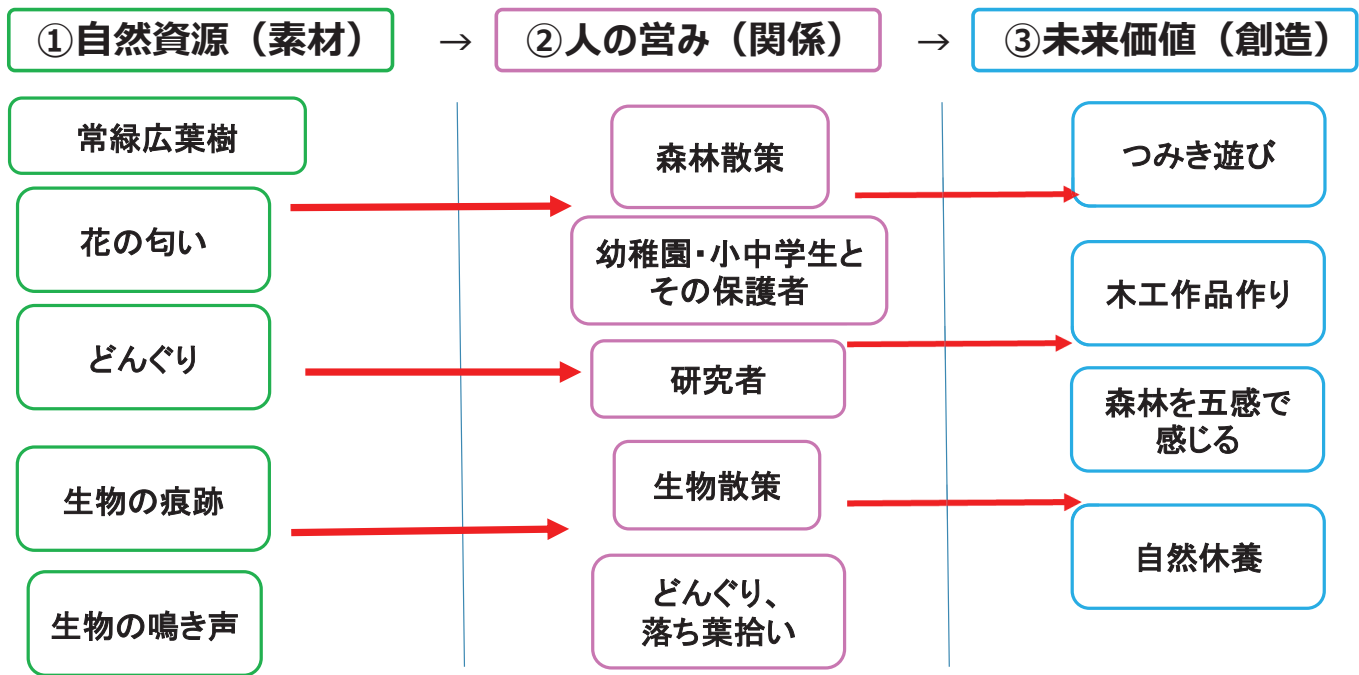
自然への関心が低いままでは、ロードキルや密猟などの問題に対する意識や行動の変化が起こりにくい。

若い世代が将来を担うため、関心をもたせることが重要な課題である。

内閣府世論調査「身近な環境に関する意識調査」



「やんばる」で見いだした価値



注目する価値要素

特に注目した価値の繋がり



やんばるの森林は豊かな自然資源を基盤として人の営みが生まれ、この関係性から価値が生まれている。しかし、現在は自然との関わりが減少していることが課題である。そのため、体験型学習を通して自然への関心を高め、自然と人の関係性を将来へつなげていくことが重要であると考えます。

持続可能な未来像

体験を通して学び・つなげるやんばるの森林

体験でしか得られない学びに着目し、五感が発達段階にある幼稚園児、興味や関心を深めやすい小・中学生、そしてその保護者を対象とする。親世代も参加することで家庭内で自然について話す機会が生まれ、学びが広がる。幼少期の自然体験は、将来の学びや環境保全への主体的な関わりに繋がると考える。



<https://www.genspark.ai/>

親子での森林散策で

自然を感じて学ぶ

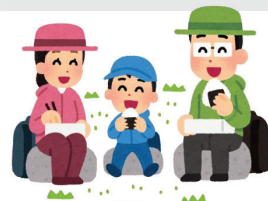
- ・木や植物の説明
- ・生きものさがし
- ・生物の痕跡
- ・鳴き声や匂い

幼稚園児・小学生低学年

やんばるの木で作った
積み木などの遊び



自然の中で拾った
木の実・葉・枝などでの作り



自然を
もっと身近に感じる

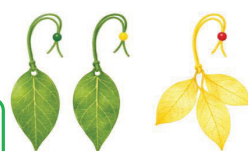
将来の学びや
保全活動につながる

小学生高学年・中学生



自然と人とのかかわりを
より詳しく説明

葉脈のしおりづくり



まとめ

未来のやんばるとこれからの私たち

寄附講義



やんばるの森林を視察し、自然の豊かさや美しさは実際に訪れてこそ実感できるものだと学んだ。同時に、この森が長い時間をかけて生まれ、多くの生き物や人々と結びつきながら守られてきたことも理解した。この体験を通して、私たちはこの感動をより多くの人に伝え、訪れるきっかけをつくる行動をしていきたいと考える。そして、自然はただ守る存在ではなく、実際に触れ、感じ、学ぶことでその価値に気づくものだという事を、社会に対して発信していきたい。

参考文献

- ・ 出典：内閣府世論調査「身近な環境に関する意識調査」 (<https://survey.gov-online.go.jp/environment/202501/r06/r06-mijikanakankyo/#kekkgaiyo>)

「やんばる」の価値を考える

イオン環境財団寄附講義琉大特色・地域創生特別講義

「足元から見るやんばる」

G2 フラワーポジティブやんばる

国際地域創造学部2年 住倉舞衣子 人文社会学部1年 明里連太郎

人文社会学部1年 島袋さゆり

教育学部1年 浜元凜夏



2026年2月23日

座学での学び

地域の持続性のためのキーワードを理解する

寄附講義



ネイチャーポジティブ:

生物多様性の損失を止め、回復させること。
ネイチャーポジティブ社会への移行により、生物の保全だけでなく人間の経済活動にも利益をもたらすとされている。

これまでイメージしていたやんばるは、「手つかずの自然」という印象が強く、人間による介入がないからこそ生物多様性が保たれているのだと思っていた。しかし、実際には自分たちの知らない場所で様々な管理が行われていることがわかった。

画像引用:環境庁 ネイチャーポジティブポータル





👉 コバナヒメハギ

野草探し



👉 木のウロ(樹洞)

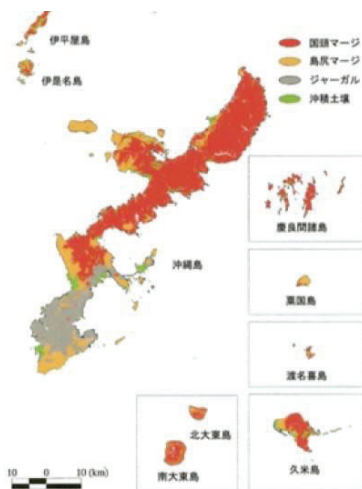
与那フィールド探検



『やんばる学びの森』でやんばるの森を一望

現地では、与那フィールドを探索したり、伐採林やダムなどを見学したりした。やんばるの森では、豊かな自然とそれを保全する人々の工夫が見られた。一方で、『やんばる学びの森』やダムなどでは、やんばるの抱えるロードキルや密猟などの問題を知った。その中で、足元に広がる野草や栄養を豊富に含んだ土など、やんばるの森の形成には土壌環境を適切に保つことが森林や生態系の維持などにとって重要だと気付いた。

資源の循環や生態系の維持などの観点から、やんばるでは、「足元の自然」にこそ価値があるのではないかと。

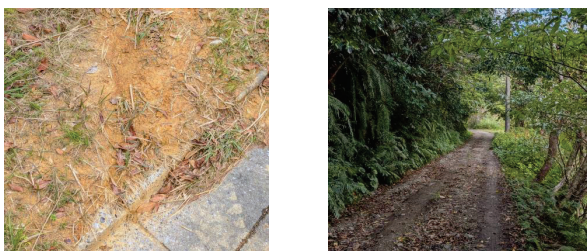


やんばるの土壌

北部:国頭マージ (赤色黄土・酸性)
 南部:島尻マージなど (石灰岩質・アルカリ性)
 ⇨やんばるには国頭マージの酸性土壌に適応した在来種が多い

しかし...

- 本部町で生産されたセメント (アルカリ性) をやんばるの道路整備に使用
 ⇨道路沿いの植生に影響
- 足や車で踏み固められた場所 (踏圧のかかる場所は根が張りづらくなる)
 ⇨土壌環境を考慮したインフラ (歩道・車道) の管理が重要



画像引用「赤土等流出防止パンフレット 未来につなげよう 美ら島・美ら海の恵み(令和3年3月沖縄県環境保全課)」

山菜探検 🗺️



(道の駅 ホームページより)

カラキ

シナモン的一种で昔から薬や香辛料として使われた。噛めばシナモンの味がする！

ホウビカンジュ、タニワタリ類 (オオタニワタリ)

新芽をお浸し、天ぷら、炒め物などで食べる

見られた植物

島グワ、ホウビカンジュ、オオタニワタリ、カラキ (沖縄ニッケイ)、フーチバー (ヨモギ)、リュウキュウバライチゴ



リュウキュウバライチゴ

本来は4月に実をつける 🍓 甘くてゼリーや果実酒に利用される

見出した価値

やんばるで見出した価値の繋がり

寄附講義

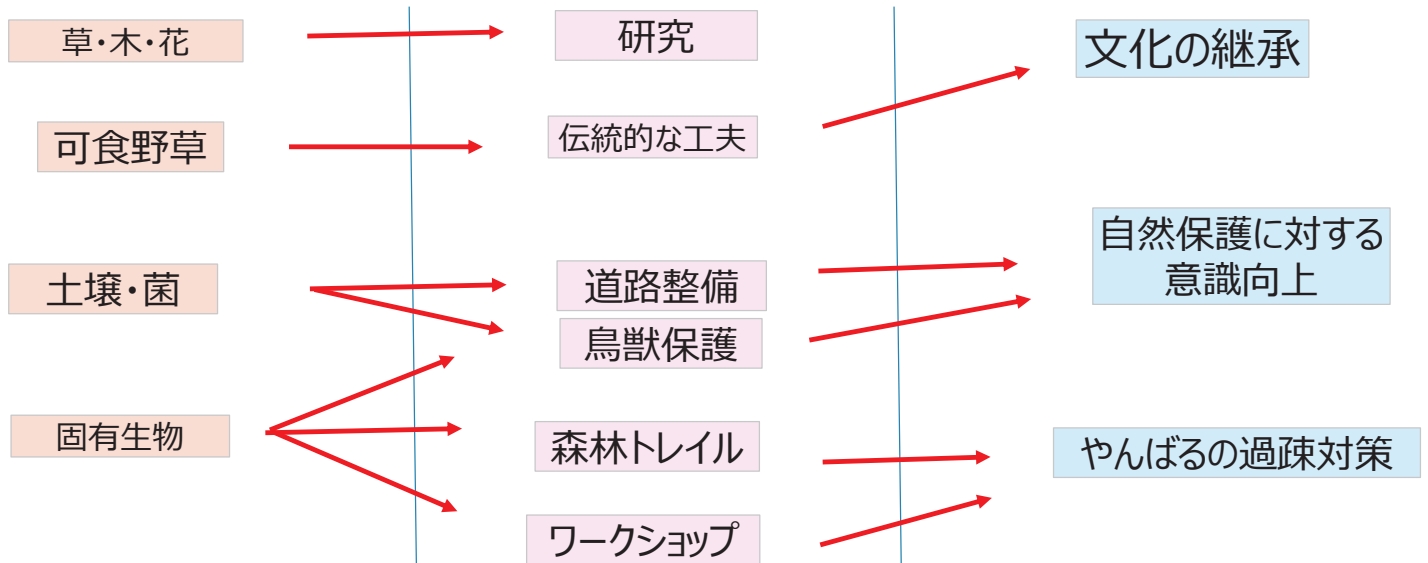
① 自然資源 (素材)

→

② 人の営み (関係)

→

③ 未来価値 (創造)



①自然資源（素材）

やんばるの森には様々な山菜が生育される豊かな土壌環境があった。



→

②人の営み（関係）

鳥獣保護や環境整備などが定期的に行われており、人が森に手を加えることでやんばるの森が守られている。



→

③未来価値（創造）

やんばるの森には環境を維持するための人が必要。そのため、幅広い年代を取り込んだやんばるの魅力発信をし、未来の文化継承者を育成する。



未来の文化継承のために、子どもたちからお年寄りまで幅広い年代の人々にやんばるについて興味を持ってもらい、将来（今からでも）「やんばるの森を守りたい」と思ってもらうことが大切。そのために…

☆ **子ども向けワークショップ**

☆ **給食で山菜料理を提供**

☆ **県内のあらゆるスーパーでやんばるの山菜を提供**

☆ **山菜探索ガイド**



イオンで山菜を売るモデルについて

～野菜コーナーで山菜を気軽に手に取れるように～



※画像はGoogle Gemini (生成AI) を用いて作成したイメージ画像のため、実際の地図や山菜と異なる部分があります。



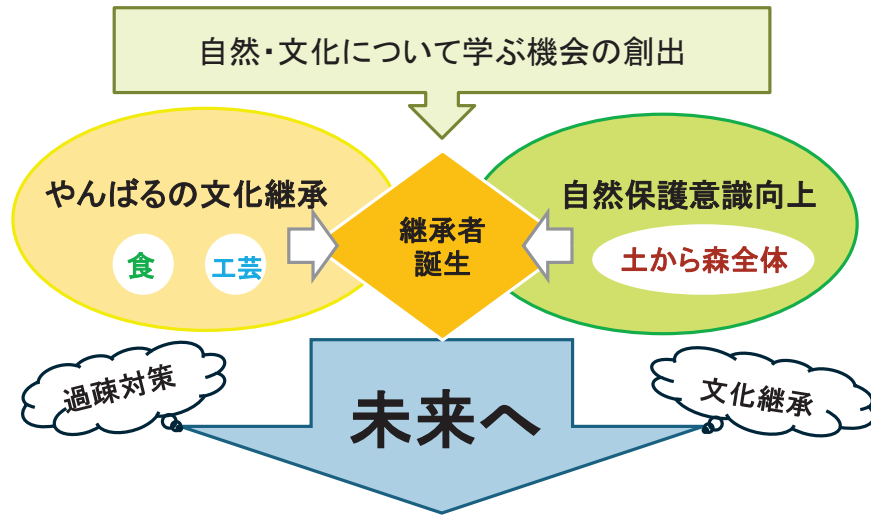
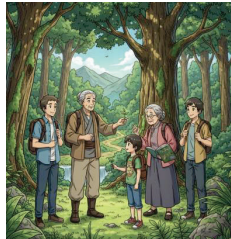
ポイント

1. 中央にやんばるの地図を置き、山菜が採れた場所を示す。
2. 地図の周りに山菜を置き、手に取りやすくする。
3. 山菜だけでなく、山菜からできた調味料や料理の素材など、山菜を利用した商品も置いて、料理のイメージが付きやすいようにする。

持続可能な未来像

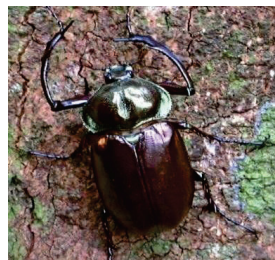
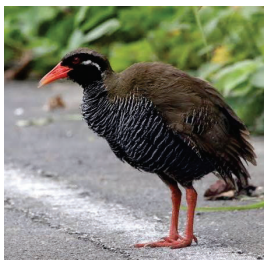
どんな未来を生むのか

「やんばる」について学ぶ機会を創出し、
次世代へ自然も文化も継承する。

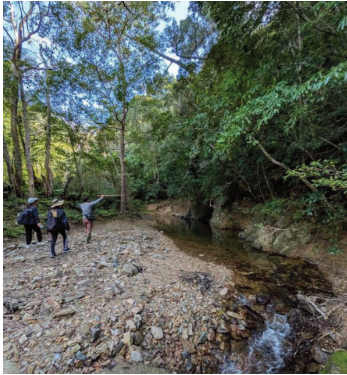


まとめ

- ・視察を通してやんばるの森が様々な側面から守られていることを知り、一人ひとりがやんばるの繊細さを理解し、自然保護の意識を高めていくことが重要であると感じた。
- ・老若男女にやんばるについて学ぶ機会を創出することは、「やんばる」を守る継承者を輩出し、県民に対して、自然保護意識や文化の波及を促す。
- ・継承の連鎖が生まれることで、100年後も県民の宝となるような「やんばる」が県民主体で守られていく。



現場を見て学んだこと・感じたこと・伝えたいこと



自然環境の豊かさ



昔の生活の知恵が面白い



森を知る事で愛着が湧いた

- ◆ 川の水が澄み、空気が美しく、星空も非常に綺麗だった
- ◆ やんばるの木には多様な特性があり、用途ごとに使い分けられてきた
- ◆ 実際に訪れることで、森の豊かさと地域の課題をリアルに理解できた

やんばるの森はその価値の高さに対してあまり知られておらず、**保全にあまり意識が向いていない。**
やんばるの森について**知ってもらう機会**をもっと増やし、**愛着を持ってもらいたい！**

「やんばる」で見いだした価値

①自然資源（素材）

→

②人の営み（関係）

→

③未来価値（創造）

イジュ

皮の毒で魚を捕まえる
家屋の材木として使う

テントの骨組みなどに
活用しサバイバル体験

イタジイ

ドングリの数から野生生物の
個体数を推測しロードキルの
起きやすさを予測する

植樹体験で植えた木の一部を
商品として受け取れる

イスノキ

畑の周りを囲うように植え、
柵として使う

やんばるフォトコンテスト

イヌマキ

首里城の材木として使われていた

やんばるサバイバル体験

外来種のシャクトリムシの影響
で育ちにくくなった

イメージキャラクターの作
成



注目する価値要素

特に注目した価値の繋がり

①自然資源（素材）

やんばるの森には多くの種類の植物がある。



繋がり説明

②人の営み（関係）

魚毒などの生活の知恵
畑の周りを囲うように植え、
柵として使う。



③未来価値（創造）

森の中での体験を通して、
自然の良さを知ること、
保全意識を高めるきっかけとする。



やんばるの豊かな植物を生活の知恵として活用してきた**文化を体験し**、
自然の価値を再発見することで、未来へ向けた保全の意識を育む。

持続可能な未来像

どんな未来を生むのか

体験を通してやんばるの森の価値を知る人が増えることで、保全意識が高まり、
自然環境と地域文化が未来世代に継承される。



具体的に何をすれば森に興味を持ってもらえる？



①体験型イベント

- 植えた木の一部を製品(ペンや積み木など)として受け取れる植樹体験
- 昔の人々の知恵を使ったサバイバルキャンプ

▼AIで生成したイメージキャラクター案

②教育・普及

- 現地訪問型プログラム

③関心を広げる仕組み

- ドングリ加工体験(料理、おもちゃ…)
- イメージキャラクター



体験→理解→愛着→保全
の流れを作る



現場での体験を通じ、先人の知恵と自然の繋がりを自分事として捉えることができました。他の人にも、やんばるの森の中で自然の面白さを感じてもらうことで、森への愛着が湧き、保全意識が高められると考えます。



「やんばる」の価値を考える

イオン環境財団寄附講義琉大特色・地域創生特別講義

「星空でつくる明るい未来」

理学部 1年 高木良哉
国創学部 1年 照屋功

農学部 1年 當間彩美
人文社会学部 1年 濱川美海

座学での学び

星空の保全 = 生態系の保全！？

寄附講義



- 沖縄では南の星が多く見える
- 暦や稲作の周期など人とのかかわりは深い
- 惑星の名前はギリシャ神話が由来

- 沖縄には国頭村と石垣島に天文台がある
- 星空保護区を目指している

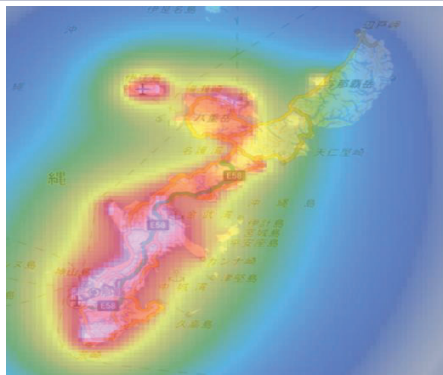


- やんばるの森は2021年に世界遺産に登録
- **生物多様性**
- 国頭村の80%以上が森林

- 夜の暗さを作ることはやんばるの森の生体系を守ることもある
- 光害を減らす、星に興味を持ってもらうことが大事



当日見ることができた星空



生態系と星空に影響を及ぼす「光害」



- ・夜行性の動物たちの鳴き声が聞こえてくる。
- ・思っていたより周囲の明かりが星空に与える影響が大きい。
- ・人々の生活や動物や植物の生育に関して、「光害」が大きな問題となる。
- ・星座の知識
- ・ヤンバルクイナ座を作ったらしい。でかすぎる

沖縄の中でもやんばるにしかない星空の魅力がある！
一方で、星空とその周りの生態系の保全とそれらが脅かされる光害に注意。

現地での学びから、
 私たち自身もやんばるの夜の良さを実感しました。
 そこで思ったのが、

素敵なやんばるの夜を未来の子たちに残していきたい！

けれども、、、
 まだまだ光害やロードキルなどに対する関心が低い
 世界遺産は観光だけでなく、積極的に保全をしていかなければならない！

行動しなければ何も変わらないときづいたので、守るための
 方法を考えてみました！



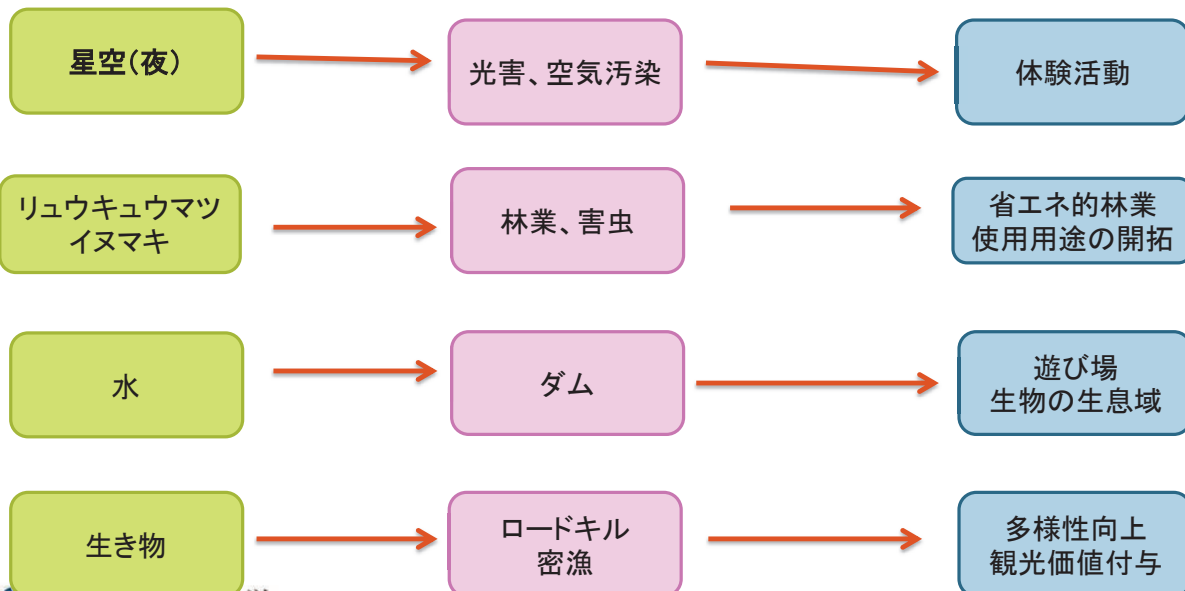
① 自然資源 (素材)

→

② 人の営み (関係)

→

③ 未来価値 (創造)



①自然資源（素材）

→

②人の営み（関係）

→

③未来価値（創造）

国頭村の星空を観察しました。沖縄では一等星がすべて見え、耳を澄ますとヤンバルクイナやカラスバトの鳴き声が聞こえました。



光害が森林やそこに生息している生き物に影響を与えていることを学びました。ヒメカン信仰など文化との繋がりも見られました。



立体映像を使用したナイトツアーで、星空と夜の生き物についてわかりやすく伝え、理解と関心を高めます。



ただ明かりが少ないため夜暗い地域、ということではなく、そのおかげで見られる星空や生息できる生物がいることが分かりました。ナイトツアーで夜を過ごしてみても、人々の暮らしと自然のつながりを体感することで、その気づきが夜の暗さを守る行動や光環境への配慮へとつながることを目指します。

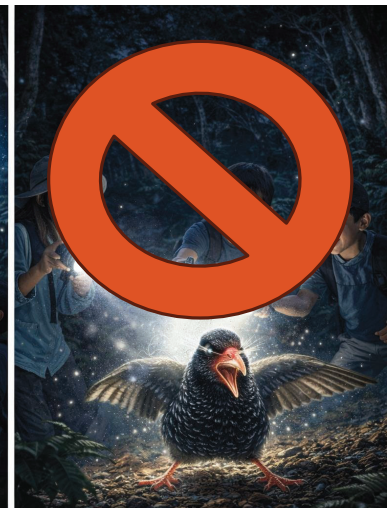
夜のやんばる
・星がきれい
・生き物の声が聞こえる
でも
姿は見えにくい

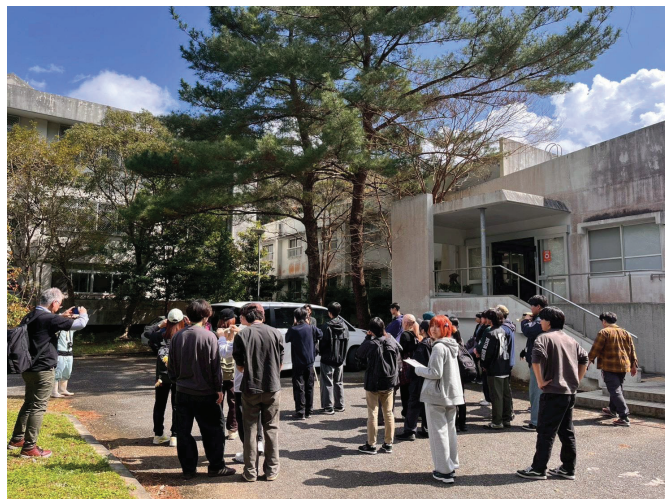
どんな未来を生むのか

- ①見えない自然を可視化
- ②子供・観光客が楽しめる「学びとエンタメの融合」
- ③本物の自然を守る→動物を無理に探さなくてよくなる

そこで
提案するのが

自然を壊さずに
「見える化」
するナイトツアー





やんばるの森では、私たちの想像以上に人の手が介入して共存していることが分かった。また、星空ツアーのようにやんばるの魅力伝える活動を絶えず続けていくことで、世界遺産としての多様な価値を保存することができると思う。

Q.どんな生き物の鳴き声が聞こえましたか。

A.リュウキュウコノハズク、リュウキュウオオコノハズク、リュウキュウアオハズク、虫、カエル

Q.ナイトツアーで用いる立体映像による光害はありませんか。

A.行動を乱しにくい琥珀色やオレンジ色、赤色といった波長の長い照明を使用します。また、街灯などの照明と比べて弱い光で映像を投射できると思います。

Q.ナイトツアーの実現可能性、また、費用の工面方法を教えてください。

A.今現在ではなく、未来での話として提示しました。イオン環境財団さんに期待しています。

Q. ナイトツアーではなく、プラネタリウムでも可能でしょうか。

A. あくまで体験重視であり、自分でやんばるの森を歩き、音や匂いなどを感じ、星空を見ることでやんばるの夜の良さを感じる事が「やんばるの森を守りたい」という考えにつながると思います。

また、質疑応答を通して観光地のプロジェクションマッピングやイルミネーションなど、観光と自然の保全のバランスも大事だと気付きました。

(出所) Yanbaru Dark Sky Forest 国頭村役場 商工観光課
https://yambaru-dark-sky-forest.okinawa/starry_sky/

(出所) おきなわカエル商会
<http://www.okinawa-kaeru.net/wild/bird/ryukyukonohazuku-1.html>

(出所) おきなわカエル商会
<http://www.okinawa-kaeru.net/wild/bird/yanbarukuina-1.html>

(出所) ソニー株式会社
<https://share.google/images/6DGyQfBnav33qwR0t>



「やんばる」の価値を考える

イオン環境財団寄附講義琉大特色・地域創生特別講義

「次世代のためにつくる共生な未来」 やんばるジャスティス

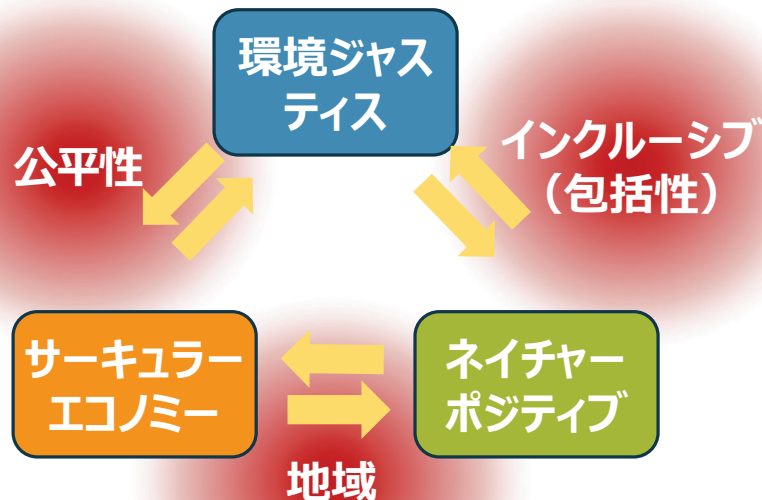
国際地域創造学部 2年次 247127C 具志堅咲来
国際地域創造学部 2年次 247189C 新城陽都

国際地域創造学部 2年次 247452c 高宮城七海
理学部 1年次 253339B 白武蒼一郎

座学での学び

地域の持続性のためのキーワードを理解する

寄附講義



寄附講義では、環境ジャスティスやサーキュラーエコノミー、自然共生社会などの定義について学び、言葉自体はこれまでの既有知識から聞き覚えがあったが抽象的な理解で内容はあまり分からなかった。

講義で学んだ環境ジャスティスの視点に立脚して考察し、世界自然遺産に登録されたやんばるの森の価値について理解してきたが、その裏側には米軍の軍事施設の利用や行政間との役割の違いなど複雑な社会問題を抱えている事を学んだ。

現場を見て学んだこと・感じたこと・伝えたいこと



与那フィールド周辺の散策



やんばる学びの森

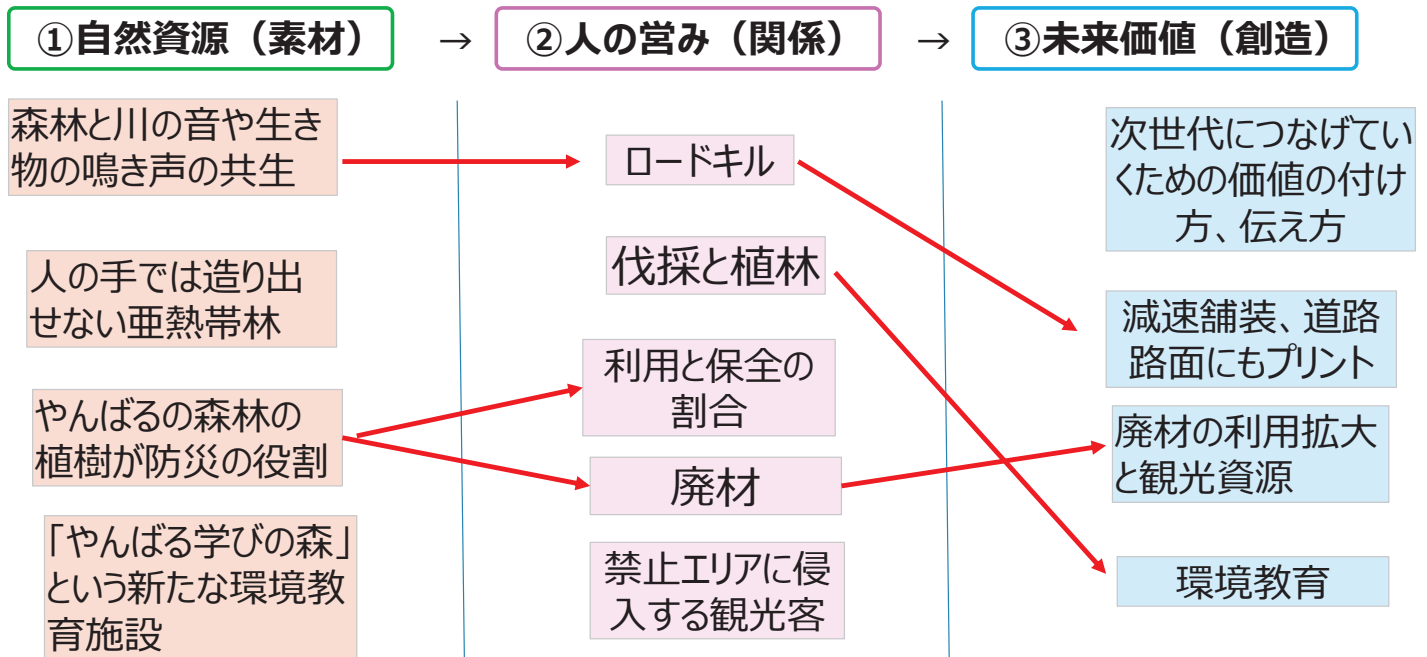


星空観察

私達も実際にやんばるの森や与那フィールドに訪れ、川の水の音や生き物の鳴き声などの環境音、沖縄島特有の原生的な亜熱帯林の姿を視察した。また、生活の光の少ない場所で星空観察を行い、国頭の星空も堪能した。

**世界自然遺産やんばるでは、生物多様性や森林の広大さを感じ、満点の星空を体験した。
同時に世界自然遺産と人の近さが生み出す課題について気づくことができた。**

「やんばる」で見いだした価値



注目する価値要素

特に注目した価値の繋がり

① 自然資源（素材）

やんばるには生き物の鳴き声や水の音が聞こえたり、やんばるにしか生息していない特定の生き物が存在したり、生物多様性の環境。森林は、生物の住処や保安林の役割を担っている。



繋がり説明

→

② 人の営み（関係）

森林を観光や伐採などで利用しているが、保全活動が足りておらず、利用と保全の割合についての課題がある。林業では形状が優れた木は売買されるが、廃材の利用で課題がある。



→

③ 未来価値（創造）

やんばるの自然に浸り、非日常を感じられる体験型観光。やんばるの生き物や川の音、森林の香りなど五感で体験できる廃材を利用したサウナ、酵素浴施設。



座学と宿泊学習を通して、森林を散策したり、星空観察をしたりすることが非日常体験で、またやんばるの価値（生物多様性、動物の住処や防災などの森林の役割）を知った。やんばるの生物多様性を活かしつつ、森林の利用と保全活動に努めるために、廃材を活用したサウナや酵素浴施設で生き物や水の音を聞きながら身体を休め、非日常を感じられる体験型観光を提案する。

持続可能な未来像

どんな未来を生むのか

やんばるの森の廃材利用を観光につなげ、その利益の一部を森林の保全活動に還元することで、やんばるの森の価値を高め、森林の利用と保全を持続させる循環を生み出す。



やんばるの森で癒しの体験

生き物の鳴き声
や川の音を聞き
ながらサウナを
楽しむ



イタジヤ
ガジュマル等の
香りを感じられ
る酵素浴

まとめ

- 自然なただ守られるものではなく**共生**するもの
- 自然の大切さを理解するだけでなく**行動も伴う**ことで学びは価値をもつ。
- 自然保護は「特別な誰か」が担うのではなく「**みんな**」で担うもの。
- 自然を守ることはコストではなく、**未来への投資**



「やんばる」の価値を考える

イオン環境財団寄附講義琉大特色・地域創生特別講義

「どんぐりから始まる未来革命」

人文社会学部 2年 新垣寿夏

工学部1年 宮城柊治

国際地域創造学部 1年 今西星瑠

国際地域創造学部 1年 水野彩茶

座学での学び

世界遺産の多面的な価値

寄附講義



寄附講義では、やんばるの森が世界遺産であることはもちろんのこと、森が人や動物、植物に多大な影響を与えていることを認識できた。さらに、恩恵を受ける側も互いに影響しあって生活していることも学んだ。

特に、一日目の午後に訪れた古木が多く存在する森では、やんばるの森を占めるイタジイの多さとそれぞれの植物が担う環境の役割を学ぶことができた。

現場を見て学んだこと・感じたこと・伝えたいこと

チーム名：No Insect
作成者：チームのみんな



現地の方から見た人と自然の共生



やんばるの学びの場



地域の生態系を体感

我々も実際に世界自然遺産の場所に立ち入ったり、伐採地や造林地の見学、そして現地の方への聞き込みなどを行った。やんばるでは、生態系の成り立ちとともに、解決すべき課題が存在することを学んだ。その中でも我々はイタジイに着目した・・・

やんばるではイタジイが森林の多くを占めており、貴重な生物を育むと同時に、私たちの生活にも関わっていることがわかった。そのため、イタジイは自然と共生しながら持続可能に活用できる資源であると感じた。

やんばるの森を支える「イタジイ」

イタジイとは??

イタジイは、やんばるの森を構成する代表的な櫛木であり、ドングリが動物の餌になるなど、森林の生態系を支える重要な存在である。また、樹皮や木部は天然染料として利用され、沖縄の伝統織物である首里織の染めにも用いられてきた。このようにイタジイは「森の資源」と「伝統文化」を結びつける役割を持つ。



<http://okiguru.seesaa.net/article/40609939.html>

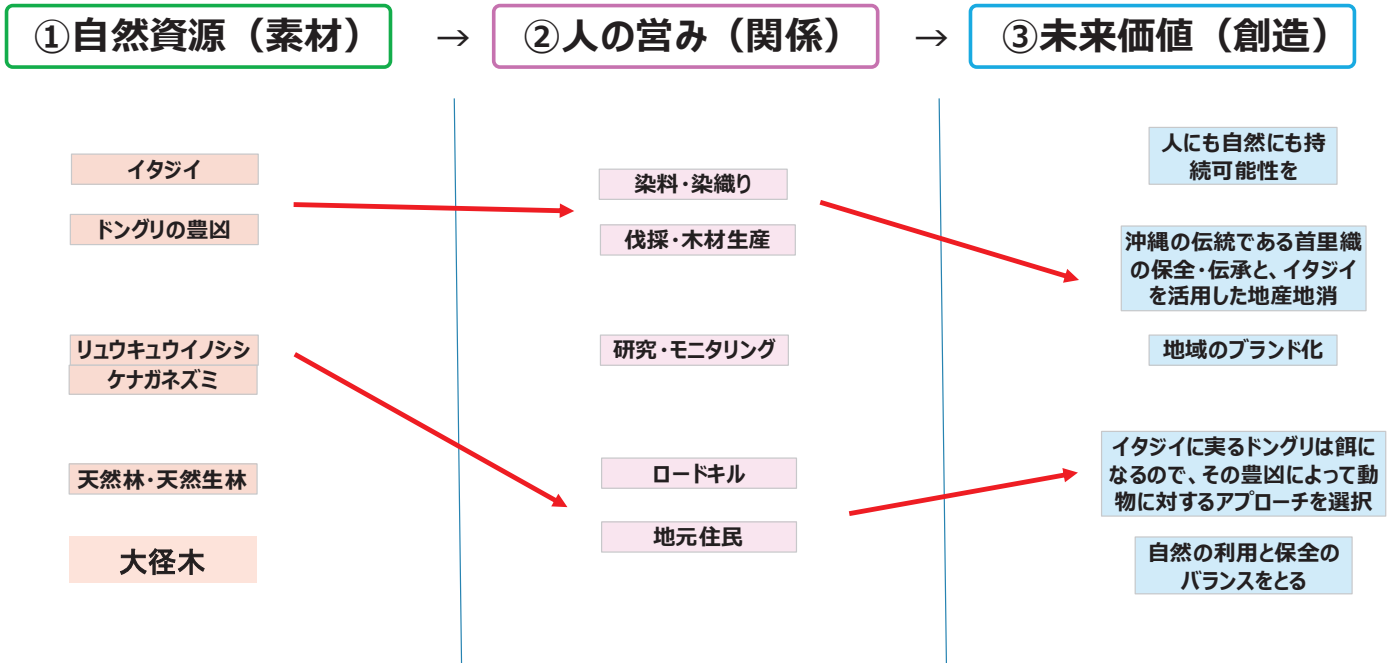
課題とその解決に向けて・・・

現在はやんばるの森林環境の変化や、森と伝統工芸の関係が一般にあまり知られていないこと、さらに首里織の染料の不足が課題であると考えられる

**イタジイを通して森の価値や文化とのつながりを広く共有し、
環境保全と文化継承を結びつける取り組みを行う**

「やんばる」で見いだした価値

チーム名：No Insect
作成者：チームみんな



注目する価値要素

特に注目した価値の繋がり

チーム名：No Insect
作成者：チームみんな



繋がりの説明

イタジイはやんばるの森を代表する樹木であり、どんぐりを通して希少生物の命を支えている。また、沖縄の伝統的な織物である首里織の染料にも使われる。その多面的な価値を人の営みに活かし、染料としての商品化や、実ったどんぐりの量に応じた森林生態系の管理（ロードキルや農作物への被害への対処など）へと展開することで、自然資源と地域価値を結びつける。さらに、その循環を可視化することで、人と自然が共生する持続可能な地域社会の未来価値へと発展させていく。

そもそも、首里織の価値とは？

首里織や着尺が高価な理由

- ・機械を使わず手織りで製作
- ・イタジイをはじめとする、琉球藍やフクギなどの天然染料を使用
➡ **準備や染料に時間がかかり、完成まで数ヶ月～数年**
- ・琉球王国時代は王族・貴族専用であった
- ・製作できる職人が限られ、その製作技術の継承に多くの時間が必要

➡ **希少性が高い**

まとめ

その希少性と、膨大な時間と手間をかけて作られることから、首里織はその美しい模様や品質が高く評価され、高額での取引が行われている。



織物の活用アイデア

「森を織る」観光プログラム

やんばるの森 × 首里織 — 自然と文化をつなぐ体験型エコツーリズム —

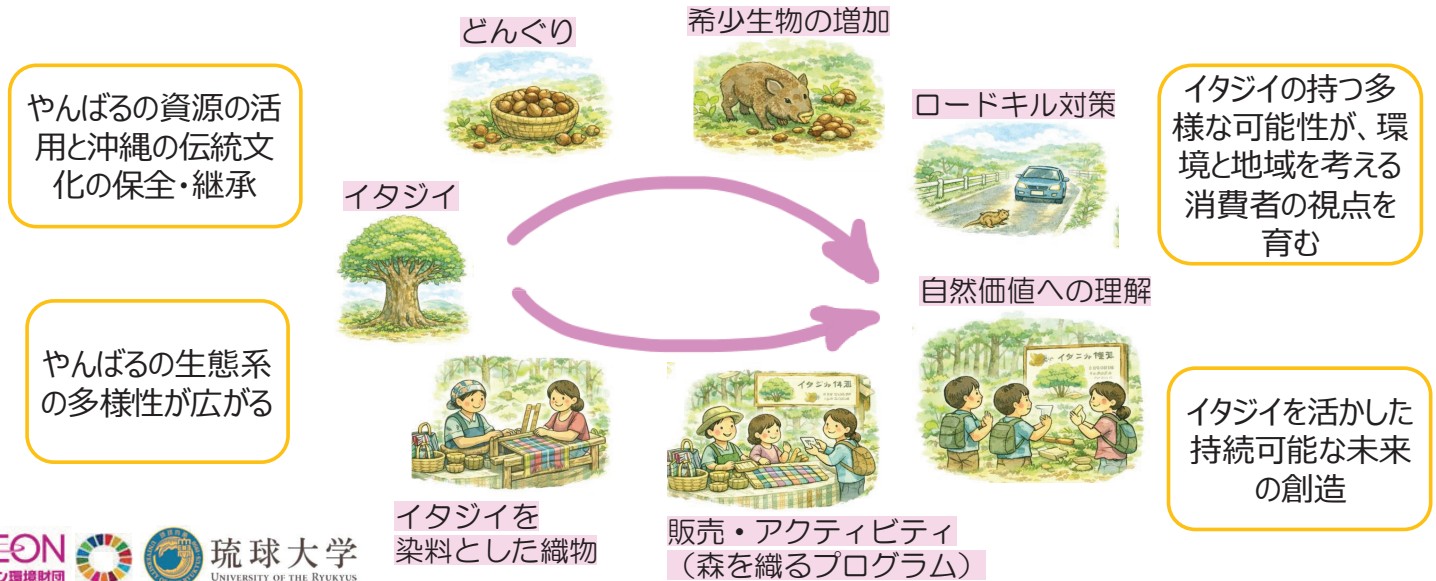


持続可能な未来像（循環の可視化）

チーム名：No Insect
作成者：チームみんな

どんな未来を生むのか

イタジイを核に、生態系の再生と地域資源の商品化を両立し、消費者意識を変える持続可能な循環をつくる。



まとめ

- ・ イタジイには、動物たちの餌になることや染料として織物に使われるなど、さまざまな用途がある。それらを活用することによって、持続可能な未来への可能性を広げることができる。
- ・ 世界遺産の価値を“守る”だけでなく、“活かし”、“伝え”、選ぶ“行動”へとつなげることが私たちにできることである。
- ・ 何気なく見ていた木が、動物たちの命を支え、地域の文化や伝統の保全といった、私たちの暮らしにもつながっているという意識を持つことが大切である。

2025年度後期 集中講義【イオン環境財団寄付講義】テーマ「やんばるの森と平和について(仮)」地域とつながり、次世代に語り継ぐ

科目名「世界自然遺産やんばるの森と人のつながり」@文系講義棟112室+与那フィールド

	2026/2/12 (木)	2026/2/13 (金)	2026/2/21 (土)	2026/2/22 (日)	2026/2/23 (月・祝)
朝食				ケータリング②	ケータリング⑤
1 (8:30-10:00)	8:30-10:30 【オリエンテーション】 【講義】①・アイスブレイキング活動 (大島) 【講義】②「世界自然遺産やんばると平和について」(大島)	【講義】【実習】⑧ & ⑨ 大島順子 ・沖縄の自然と文化(風樹館見学:ワークシート) ※開始15分程度で館内の解説(平良渉先生)の後、自由見学(8:30~10:00) 11:00 振り返り&グループ分け	9:00 大学出発@千原キャンパス本部前 11:00 現地到着 11:15 ~12:15 【講義】⑩「やんばるの森の概要」(仮) 高嶋先生	9:00~12:00 【講義】【実習】 伐採地と造林地の見学@与那周辺 谷口先生 (琉大バス)	【実習】グループワーク
2 (10:20-11:50)	【講義】③「人のかかわりにつくられたやんばるの森」(歴史の中で)事前講義資料共有 谷口先生				【実習】グループワーク
昼食			12:15 弁当準備 OR ケータリング	ケータリング③	ケータリング⑥
3 (12:50-14:20)	【講義】HPの概要書を事前共有 ④「イオン環境財団の環境の取組み」 山本百合子専務理事 【講義】⑤「サステナブル・コミュニティ論」(仮)事前共有 永井先生	振り返り・対話(グループワーク・グループ分け)27名(4チーム) 永井先生・山本専務理事 永井先生;グループ分けの方法キテーマについて	13:15~17:00 【実習】高嶋先生(農学部) 演習林内外(琉大バス利用) 世界自然遺産の特性を見せる 未舗装道 散策与那フィールド1時間半歩きの車移動1時間半 与那フィールドは1/4が世界自然遺産	【講義】&【実習】 世界自然遺産エリア全体を俯瞰する 大島&久高将和(琉大バス利用) 世界自然遺産の課題 外来種、ロードキル、 世界遺産の範囲についても説明	【講義】グループプレゼンテーション 4チーム×15分(10分+5分) *ポスター制作は途上の段階
4 (14:40-16:10)	【講義】⑥西原事務局長「自然と平和」 【講義】⑦銘苅室長「イオン琉球の環境社会貢献活動」	参加が1,2年生なので、世界自然遺産のどんな価値を発見したか、新しい発見は何か、それをどう伝えるか(アイデア)+平和とは、人々とのつながりの視点 ■この時間に、宿泊実習のオリエンテーションを組込む			15:00 現地出発(琉大バス) 17:30 大学到着
5 (16:20-17:50)	予備			【講義】永井先生「グループワークの進め方・まとめ方」【実習】グループワーク・ディスカッション	
夕食			ケータリング①	ケータリング④	
7(前) (19:40-20:25)			休憩	【実習】グループワーク・ディスカッション 大島・山田・山岸・深田駐在	
7 (20:25-21:10)			※星空観察(国頭村商工観光課) ※スライドトークも可能@与那フィールド講義室		

科目番号	教室	登録人数	履修登録方法
琉117		10	調整期間登録
開講年度	期間	曜日時限	開講学部等
2025	後学期	集中	共通教育等科目琉大特色・地域創生科目
講義コード	科目名[英文名]	単位数	
101675002	琉大特色・地域創生特別講義X (世界遺産やんばるの森と人のつながり)	2	
担当教員[ローマ字表記]			
大島 順子, 谷口 真吾, 高嶋 敦史			

授業の形態

講義、実習

アクティブラーニング

学生が議論する、学生が自身の考えを発表する、フィールドワークなど学生が体験的に学ぶ

授業内容と方法

【2月6日更新】※メッセージ欄にも同じ内容を記載しています。

学内講義の教室と宿泊実習の集合場所&時間等についてお知らせします。間違いのないようお集まりください。宿泊実習の事前案内等は、学内講義の際に行います。

【学内講義】

日時：2月12日（木）～13日（金）1～4限

教室：文系講義棟112室

スケジュール：教室でのオリエンテーションワーク&講義と本学の風樹館の見学をはじめ、本寄附講義の寄附者であるイオン環境財団による講義とグループワークなどを予定しています。宿泊実習のスケジュールは2/13に詳細を説明します。

【宿泊実習】

日時：2月21日（土）～23日（月・祝）

場所：琉球大学農学部与那フィールド

集合場所&出発時間：琉球大学本部横車庫2/21（土）9:00

集合&解散場所：琉球大学本部横車庫2/23（月）17:00予定

***** 【9月30日21:30更新】※メッセージ欄にも同じ内容を記載しています。

受講希望者が定員を超えたため、受講者の決定は担当教員らで抽選することいたします。出来るだけ多くの学生に受講の機会をさしあげたいと思いますが、宿泊地となる与那フィールドの適正な定員数があることら、ご理解のほどお願いいたします。この科目への履修登録は、先ず教務情報システムにおいて登録申請をしてください。そして、抽選の参考にするため、以下の内容をメール本文に記載し、宛て先を担当教員3名としてメールを送信して下さるようお願いいたします。締切は、10/7（火）23:59とします。受講の決定は10/15（水）を予定しています。

※9/30（火）17:20までに追加登録を教務情報システムに入力した学生には、個別メールで今回のお願いを送ります。この時間以降に追加登録を希望する学生は、このシラバスに記載通りにメール送信をお願いいたします。教務情報システムで登録しただけでは、抽選の対象にならないので、ご注意ください。

件名：2025後期集中講義の受講希望の理由について

本文内容：

1. 学籍番号
2. 所属学部学科名
3. 名前
4. メールアドレス

5. 受講を希望する理由（約200字）

宛て先を以下の3名としてメール1通を送ってください。

- ・大島順子 joshima★cs.u-ryukyu.ac.jp ←★を@に変更して送信してください。
- ・谷口真吾 shingota★cs.u-ryukyu.ac.jp ←★を@に変更して送信してください。
- ・高嶋敦史 a-taka★cs.u-ryukyu.ac.jp ←★を@に変更して送信してください。

本授業は、世界自然遺産やんばるの森を対象に、学際的なアプローチでその保全と利用の現状と課題、可能性について講義と実習（フィールドワーク）、グループワークを通して学びます。アジアを中心とする世界各地で環境保全活動に取り組む公益財団法人イオン環境財団の寄付講義として実施します。学内講義と沖縄島北部（やんばる）での宿泊実習で構成され、学生の主体的且つ対話的な要素があり、深い学びを追究するアクティブラーニングで展開されます。

URGCC学習教育目標

自律性、社会性、地域・国際性、コミュニケーション・スキル、問題解決力、専門性

達成目標

- 1) やんばるの森が世界自然遺産に登録された理由を説明できる。
- 2) やんばるの森と人のつながりを保全と利用の観点からその現状と課題を述べるができる。
- 3) 講義や実習で学んだことから課題を抽出し、グループで課題解決を導く提案を発表できる。

評価基準と評価方法

評価基準：授業時間数の3分の1以上欠席した者には単位を与えません。

（達成目標1について）

講義や実習による現地の見学を踏まえ、適切に説明できる。

（達成目標2について）

講義や実習による現地の見学を踏まえ、現状と課題を適切に説明できる。

（達成目標3について）

講義や実習で学んだことから課題を抽出し、プレゼンテーションを行い、ポスター制作に取り組むことができる。

評価方法：学内講義と宿泊実習における受講態度及びグループワークの参加態度（70%）

成果物（ポスター制作）とレポート課題提出（30%）

履修条件

- 1) 沖縄島北部（やんばる）の自然、特にその保全と利用について興味関心があり、
- 2) 民間を含めた他機関との交流に積極的に参加でき、
- 3) 学内講義（2/12-13）と宿泊実習（2/21-23：2泊3日）の全日程すべてに参加できること。

授業計画

※現在、計画のため今後軽微な加除修正がある予定。

【学内講義（実習含む）】

第1～2回：オリエンテーション、アイスブレイク、世界自然遺産やんばるについて、人のかかわりでつくられたやんばるの森

第3～4回：イオン環境財団の環境の取組みについて

第5～6回：沖縄の自然と文化について概要の理解@本学風樹館にて解説を受ける

第7回：ふりかえり&グループ分け

【宿泊実習（講義含む）】

第8～9回：やんばるの森の概説と構成林の見学

第10～11回：やんばるの森の伐採地と造林地の見学

第12～13回：世界自然遺産やんばるにおける人間活動による影響

第14～15回：グループワーク（ポスター制作）

定期試験：成果物（ポスター制作）とレポート課題の提出

■ ■ 事前学習

事前学習：公益財団法人イオン環境財団のwebサイトの閲覧を通して、財団の取組み等を理解し、問題意識や質問事項を持って授業に臨むこと。

■ ■ 事後学習

事後学習：ポスター制作を完成させ、県内イオンでのポスター発表に取り組む。（詳細は検討中）

■ ■ 教科書にかかわる情報

■ ■ 教科書全体備考

■ ■ 参考書にかかわる情報

■ ■ 参考書全体備考

■ ■ 使用言語

日本語

■ ■ メッセージ

【2月6日更新】※メッセージ欄にも同じ内容を記載しています。

学内講義の教室と宿泊実習の集合場所&時間等についてお知らせします。間違いのないようお集まりください。宿泊実習の事前案内等は、学内講義の際に行います。

【学内講義】

日時：2月12日（木）～13日（金）1～4限

教室：文系講義棟112室

スケジュール：教室でのオリエンテーションワーク&講義と本学の風樹館の見学をはじめ、本寄附講義の寄附者であるイオン環境財団による講義とグループワークなどを予定しています。宿泊実習のスケジュールは2/13に詳細を説明します。

【宿泊実習】

日時：2月21日（土）～23日（月・祝）

場所：琉球大学農学部与那フィールド

集合場所&出発時間：琉球大学本部横車庫2/21（土）9:00

集合&解散場所：琉球大学本部横車庫2/23（月）17:00予定

*****【9月30日21:30更新】※メッセージ欄にも同じ内容を記載しています。

受講希望者が定員を超えたため、受講者の決定は担当教員らで抽選することになります。出来るだけ多くの学生に受講の機会をさしあげたいと思いますが、宿泊地となる与那フィールドの適正な定員数があることから、ご理解のほどお願いいたします。この科目への履修登録は、先ず教務情報システムにおいて登録申請をしてください。そして、抽選の参考にするため、以下の内容をメール本文に記載し、宛て先を担当教員3名としてメールを送信して下さるようお願いいたします。締切は、10/7（火）23:59とします。受講の決定は10/15（水）を予定しています。

※9/30（火）17:20までに追加登録を教務情報システムに入力した学生には、個別メールで今回のお願いを送ります。この時間以降に追加登録を希望する学生は、このシラバスに記載通りにメール送信をお願いいたします。教務情報システムで登録しただけでは、抽選の対象にならないので、ご注意ください。

件名：2025後期集中講義の受講希望の理由について

本文内容：

1. 学籍番号
2. 所属学部学科名
3. 名前
4. メールアドレス
5. 受講を希望する理由（約200字）

宛て先を以下の3名としてメール1通を送ってください。

- ・大島順子 joshima★cs.u-ryukyu.ac.jp ←★を@に変更して送信してください。
- ・谷口真吾 shingota★cs.u-ryukyu.ac.jp ←★を@に変更して送信してください。
- ・高嶋敦史 a-taka★cs.u-ryukyu.ac.jp ←★を@に変更して送信してください。

※本授業は、アジアを中心とする世界各地で環境保全活動に取り組む公益財団法人イオン環境財団の寄付講義として実施します。学内講義と沖縄島北部（やんばる）での宿泊実習で構成され、学生の主体的且つ対話的な要素があり、深い学びを追究するアクティブラーニングで展開されます。

※宿泊実習にかかる費用（移動費及び宿泊費など）は、寄附講義の提供組織から支払われることにより、無料となります。

■ オフィスアワー

水曜3限、4限を設定しますが、会議等が入ることもあるので事前に問合わせて下さい。それ以外にも随時受け付けますので、E-mailで事前に連絡をして予約を取って下さい。

■ メールアドレス


この項目は教務情報システムにログイン後、表示されます。

■ URL

与那フィールドの施設



琉球大学
千原
キャンパス

那覇空港 

出典：JAXA（だいち写真ギャラリー）



◎国頭村に位置する
約271haの
「琉球大学の森（演習林）」



与那フィールドの教育の取り組み

◎ 2024年度に与那フィールドが使用された科目

学内 : 農学部7科目, 国際地域創造学部4科目, 公開講座1科目

他大学 : 2科目

その他 : 高校のSSH研修1件, 小学生の自然観察1件



森林の解説（基礎フィールド実習）



苗木の植栽方法（造林学実習）

与那フィールドの教育の取り組み

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 森林圏ステーション 文部科学省 教育関係共同利用拠点事業

南の森で
ここだけの特別な体験

森林フィールド講座・沖縄編

世界自然遺産の森、人と生きものの暮らし

日程 2023 9.19(水) ▶ 9.22(金) 申込締切: 7月12日(水)

場所 琉球大学与那フィールド
(沖縄県国頭郡国頭村字与那 685)

対象学生: 全国の大学生・大学院生
定員: 15名 (応募倍多数の場合は選考)
参加費用: 食費・滞在費 (7,000円)
宿泊場所: 与那フィールド宿舎
集合・解散: 早いレベルでだこ浦西駅 他
(集合場所までの交通費は自己負担)

お問い合わせ
お申し込み
URLへ

<https://www.hokudaiforest.jp/ffp/>

主催: 北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 森林圏ステーション、琉球大学農学部附属亜熱帯フィールド科学教育研究センター
共催: 山形大学農学部附属やまがたフィールド科学センター、佐賀大学農学部附属アリアス農フィールド科学教育研究センター
北海道山形県立センター、高崎大学農学部附属高崎フィールドサイエンス教育研究センター

共催 | 琉球大学農学部附属亜熱帯フィールド科学教育研究センター
やんばる自然体験活動協議会

2023年
11/19 (日)

高嶋先生と大嶋助手による! やんばるの森を学ぼう!

～世界自然遺産 編～ Part II

学びその1～座学&体験編～ 10:00～12:00

- ミニレクチャー: 世界自然遺産を学ぼう! (大嶋助手)
- サイエンスカフェ: 世界自然遺産の森・研究について聞いてみよう! (高嶋先生)
- 体験 @屋外: 木の見分け方・測り方を試してみよう! (高嶋先生)

学びその2～観察編～ 13:00～15:30

フィールドワーク
高嶋先生の解説を聞きながら、与那フィールド内の世界自然遺産の森や、琉球大学の研究で使われている調査地を見学してみよう! ※森まではバスで移動します

※小雨決行、雨天の場合は中止もしくはプログラムを変更します

対象: 中学生以上 20名 ※中学生は保護者同伴
参加費: ひとり100円 (保険料)
持ち物: 帽子、飲み物、長袖・長ズボン、長靴または汚れても良い靴 (山道を歩く靴・サンダル不可) カッパ (傘不可)、昼食 (近くにお店はありません)
集合: 与那フィールド管理棟 9時40分受付開始

【会場】
琉球大学農学部 与那フィールド
会場に関するお問い合わせ: 0980-41-2242

申し込み
問合せ

右の電話番号からお申し込みください
※学びその1、その2は個別にお申し込みできません。

やんばる野生生物保護センター
ワフギー自然館

開館時間: 10:00～16:30
休館日: 毎週月曜日、祝祭日
でんわ: 0980-50-1025
※対面時間 11:00～16:30

(左)
北大フィールドセンター
森林圏ステーションの
教育関係共同利用拠点の
「森林フィールド講座」

(右)
やんばる自然体験活動
協議会との共催イベント

与那フィールドの研究の取り組み

◎環境省生物多様性センターが取り組むモニタリングサイト
1000事業の森林調査に、南西諸島で唯一コアサイトとして
参加しています。

過去20年以上にわたって、100m四方の森林の動態や落葉
・落枝・種子の生産量などの基礎データを記録しています。

◎やんばるの森で、希少生物の餌資源として注目されている
イタジイのドングリ豊凶モニタリングにも協力しています。



与那フィールドの学内外からの研究利用

- ◎日本長期生態学研究（JaLTER）ネットワークに参加し、森林の生態系機能や長期動態観測などに関する研究者のフィールドや施設の利用を積極的に受け入れています。
- ◎タワーサイトがJapanFluxに登録され、森林の微気象や大気観測などに関わる研究者の利用を支援しています。



与那フィールドの年間研究利用件数

年度	学内 (農学部)	学内 (他学部)	学外
2013	24	3	24
2014	17	2	24
2015	13	2	22
2016	10	2	32
2017	10	2	25
2018	11	3	20
2019	14	3	27
2020	11	4	7
2021	16	5	19
2022	21	6	21
2023	16	10	27
2024	15	7	36